

音楽之友社スピーカーユニットの最初期型 MCAP-CR 方式によるシステム

2018年10月07日

鈴木 茂

1. はじめに

昨年のオフ会で、第一号機を発表したところ評判が良かったので、ほぼ同じ設計のものを若干変更し、ダクトをケント紙製円形断面としてローコスト化したモデルを製作しました。同じ箱で3モデル製作し、スピーカーユニットの違いなどを比較しました。私は開発のためローコストスピーカーユニットを使用していますが、いい音のユニットを使った音を聞きたいというリクエストを頂いたので、音楽の友社の Stereo 誌付録または音友ムックの高級スピーカーユニットを使いました。

2. システムの概要

エンクロージャの外形図は、添付資料に付けました。板材は、厚みがすべて12mmで、幅が125mm、外板高さ（長さ）が450mmです。ホームセンターでは、幅を125mmに合わせたらそのまま次々に切断してもらいます。そして上下板と仕切り板は奥行きも125mmのまま切断してもらい、穴加工は自分で実施します。板だけでは端部がないので15mmの角材を接着して鉋で削りました。板材料は、表面にシナラワンベニア、内部の一部にラワンベニアも使用しました。ダクトはケント紙などを外径30mmのラップの芯巻いて作成しました。

バッフル板の穴以外は同じ設計の箱なので、区別するため、それぞれ раз, два, три（ロシア語で1,2,3）という名称を付けました。入力が面倒なので、英語の文字で、RAZ, DVA, TRIという名称にしました。

表1 使用したスピーカーユニット

	RAZ(раз)	DVA(два)	TRI(три)
スピーカーユニット	10F/8422-03(ScanSpeak)	OMP-600(Pioneer)	OM-MF5(MarkAudio)

3. 自宅での自己評価

全機種ともバランスよく高音から低音まで良く再生し、単純な MCAP-CR で、低音は40Hz 近辺まで再生しているようです。音楽之友社厳選のユニットは使いやすく素性が良いと思います。

RAZ ヴァイオリンなどのアコースティックな楽器では生演奏で聞くのに近く、音楽に浸るのに良い。

(раз) 3機種の中では最も大きいですが、音場は広く、低位がいい。
音量を上げすぎなければオーケストラもしっかり再生できる。
オーディオマニアよりも音楽愛好者向けの音。

DVA ヴァイオリンなどのアコースティックな楽器では生演奏で聞くのに近く、音楽に浸るのに良い。

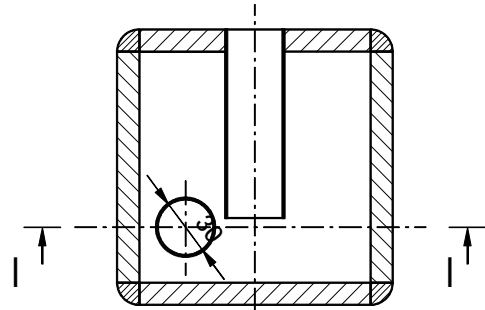
(два) 小規模の室内楽では音場が広く低位がいいが、オーケストラで音の混濁を感じるのはいさ小口径の欠点か。
オーディオマニアよりも音楽愛好者向けの音。

TRI 生演奏で聴くのとはかなり違って高級オーディオで聴くような高解像度高分解能の感じ。

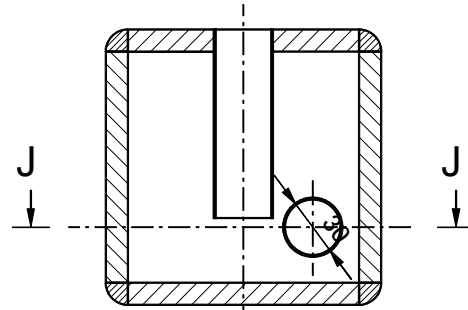
(три) オーケストラの分解能が他の2機種と比較して高い。
音を聞くのに適すが、音楽には浸りにくい。音楽愛好者よりもオーディオマニア向け。
フレームが弱い。

なお、設計などの詳細は、個人のウェブサイトに掲載する予定です。

以上



Section AA



Section BB

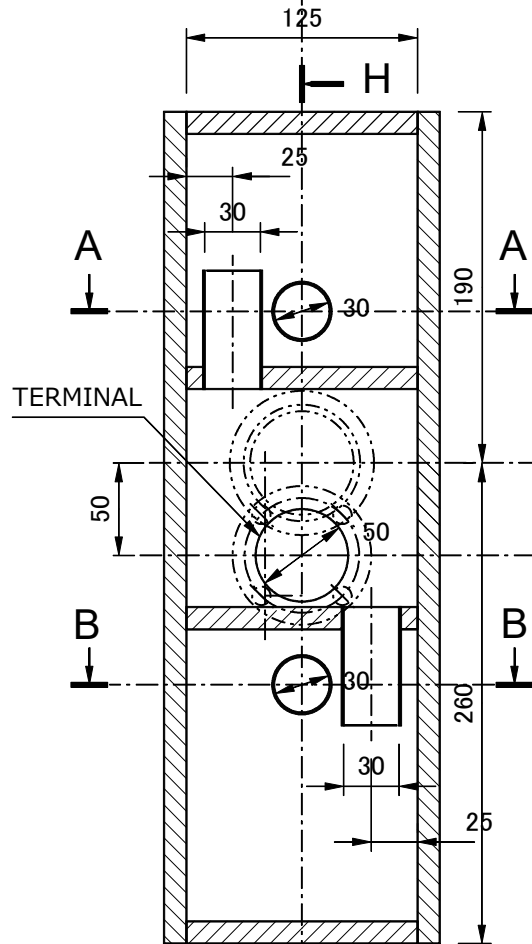
Model DU080C3

VALUE OF "D"

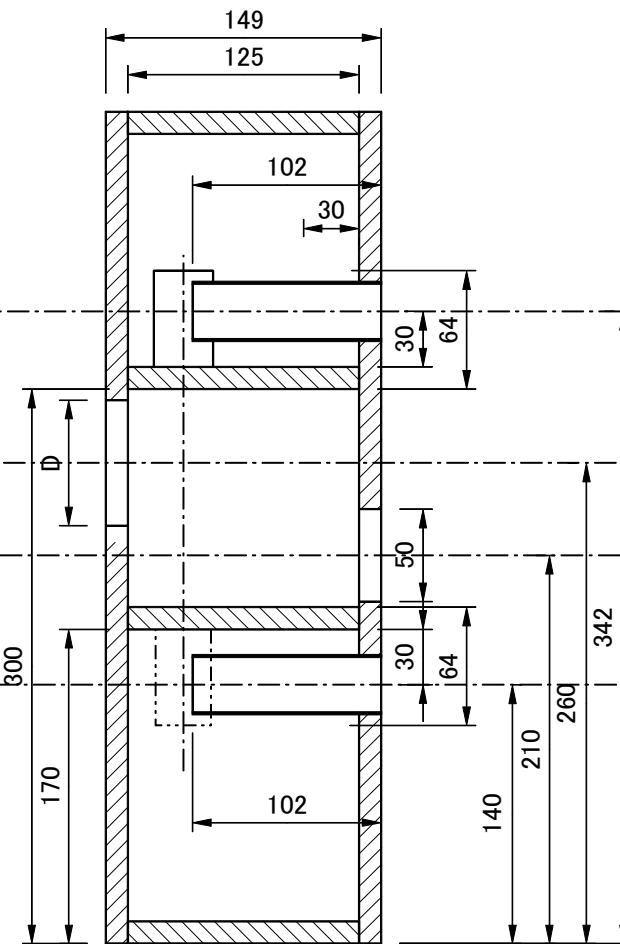
10F/8422-03 78MM

OMP-600 56MM

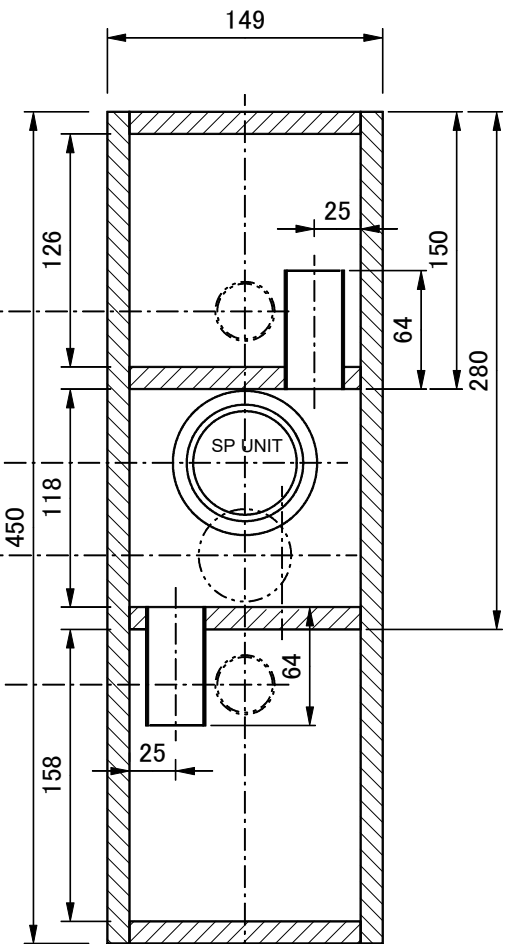
OM-MF5 70MM



Section II



Section CH



Section JJ

2018年10月7日

発表者 鈴木

使用する音楽ソフトの説明

今回はスピーカーシステムを3組デモするので、ソフトの数を5枚に限定しました。スピーカーシステム(RAZ, DVA & TRI)それぞれ、以下のソフトをおよそ1分ずつ続けて再生します。

- (1) DECCA 448 988-2 “Brahms & Strauss VIOLIN CONCERTOS”からトラック#6
Richard Strauss, Violin Concerto in D minor, op8 から Rondo:Presto
Boris Belkin, Violin, Radio-Symphonie-Orchester Berlin, Vladimir Ashkenazy, Conductor
ヴァイオリンの弦の音色と散乱するような音の輝きの有無に着目して比較してください。
- (2) RCD-16017 “Michael Glinka, Natalia Gerasimonova, sprano”からトラック#3
Ah, My Sweetheart, Thou Art
Igor Zhukov, piano, Natalia Gerasimonova, soprano
ソプラノの声の伸びやかさとピアノの響きに着目して比較してください。
- (3) PHILIPS 486 035-2 “IGOR STRAVINSKY”からトラック#8
Dance of Earth
Kirov Orchestra, Mariinsky Teatre, ST PETERSSBURG, Valery Gergiev, conductor
有名な名録音です。最初に大太鼓を含めたオーケストラのワサワサした感じが収録されています。大太鼓のチューニングは比較的高く 37Hz くらいですが、小型スピーカーシステムなので、雰囲気だけでも出るかどうか、フルオーケストラの迫力の片鱗が再現できるかに着目して比較してください。
- (4) ECM 1904 982 5173 “Bobo Stenson, Goodbye”からトラック#12
Queer Street
Bobo Stenson, piano, Anders Jormin, double-bass, Paul Motian, drums
どんなシステムでも音が良く聴こえるソフトです。
ドラムとコントラバスが似たような感じで使われているので、ぼうっと聴いているとどちらが鳴っているのかわかりにくかったりするかもしれません。
- (5) 35MD-1016 “EPO, PUMP! PUMP!”からトラック#10
12月のエイプリル・フル
最初期のJ-POPから選びました。デジタル録音でありながら開始から1分付近にワウを感じる珍しいソフトです。

時間があれば

- (6) ICC ICCD43430 “Sing for Joy 2”からトラック#2
Be Thou My Vision
Chester Cathedral Choir
オルガンはあまり低音まで使われていませんが（40Hz 前後位まで）、聖堂の響きとコーラスが美しいCDです。

最後に、3システム（スピーカーユニット以外は同仕様）の感想をお聞かせください。